

令和2年度決算

新居浜市

統一的な基準による財務書類

令和4年4月

企画部財政課

## 1 はじめに

現在の地方公共団体の会計は、単年度における現金の収支に着目した単式簿記が採用されており、決算書もこれに基づいて作成されています。

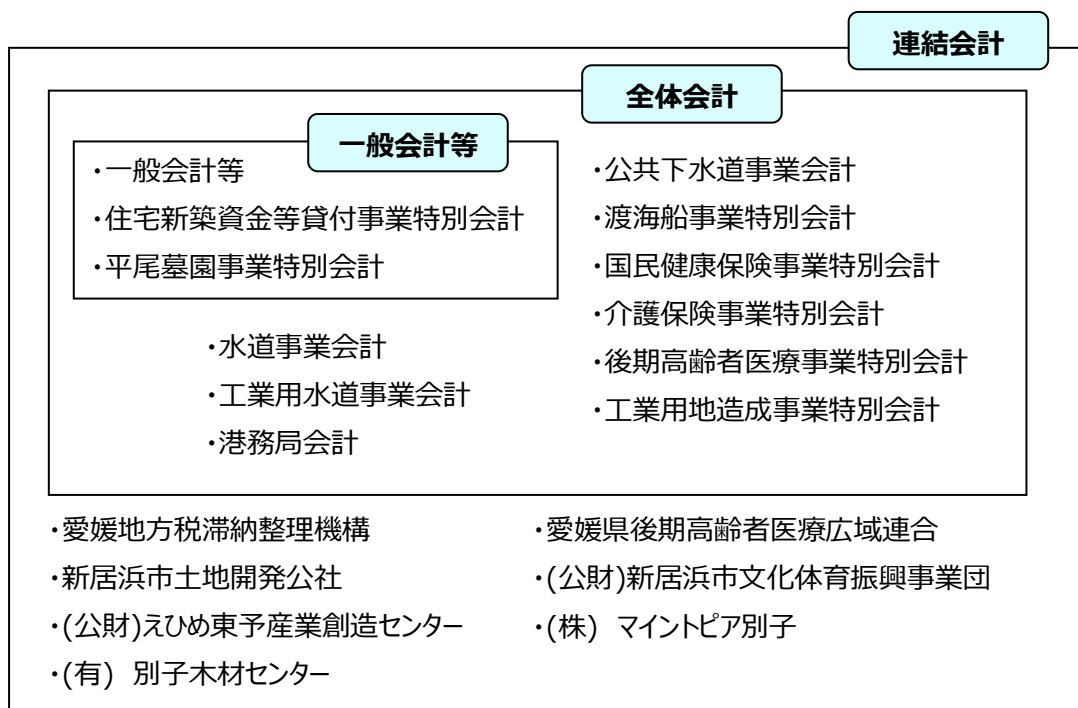
この現金主義会計の単式簿記は発生主義会計の複式簿記を採用する企業会計と比べ、これまでに整備した社会資本などの資産の状況や今後返済すべき地方債等の負債残高など、ストック情報がわかりにくいこと、また減価償却や引当金といった会計手続きの概念がないという側面があったことから、単式簿記を補完するために、全国の地方公共団体では、総務省の指針に基づき、「総務省方式改訂モデル」や「基準モデル」、又は「東京都方式」などといった複数の方法により財務書類を作成してきました。

しかし、複数の作成方法が存在するため、団体間の比較が難しいことのほか、本格的な複式簿記が進まない、固定資産台帳の整備が十分でないといった課題があったため、平成27年1月に総務省から「統一的な基準による地方公会計マニュアル」が示され、平成29年度までに全ての地方公共団体がこの基準により財務書類を作成するよう要請されました。

新居浜市では、平成20年度決算から総務省方式改訂モデルによる財務書類を作成し、公表してきましたが、総務省からの要請を受けて平成28年度決算から統一的な基準による財務書類を作成し、公表します。

## 2 対象となる会計範囲

統一的な基準による財務書類の対象範囲は以下のとおりです。



### 3 財務書類について

財務書類は、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書及び資金収支計算書の4種類の表で構成されます。

○貸借対照表（BS：Balance Sheet）：「ストック情報」

基準日時点において、市が保有する資産と、その財源（負債、純資産）の残高を対照的に表示したものです。

○行政コスト計算書（PL：Profit and Loss statement）：「フロー情報」

民間の損益計算書にあたるもので、当該年度中の資産の形成以外に係る費用が計上され、1年間の行政活動のうち、福祉サービスやごみ収集といった行政サービスに係る経費と、その行政サービスの対価として得られた収入を対比させたものです。

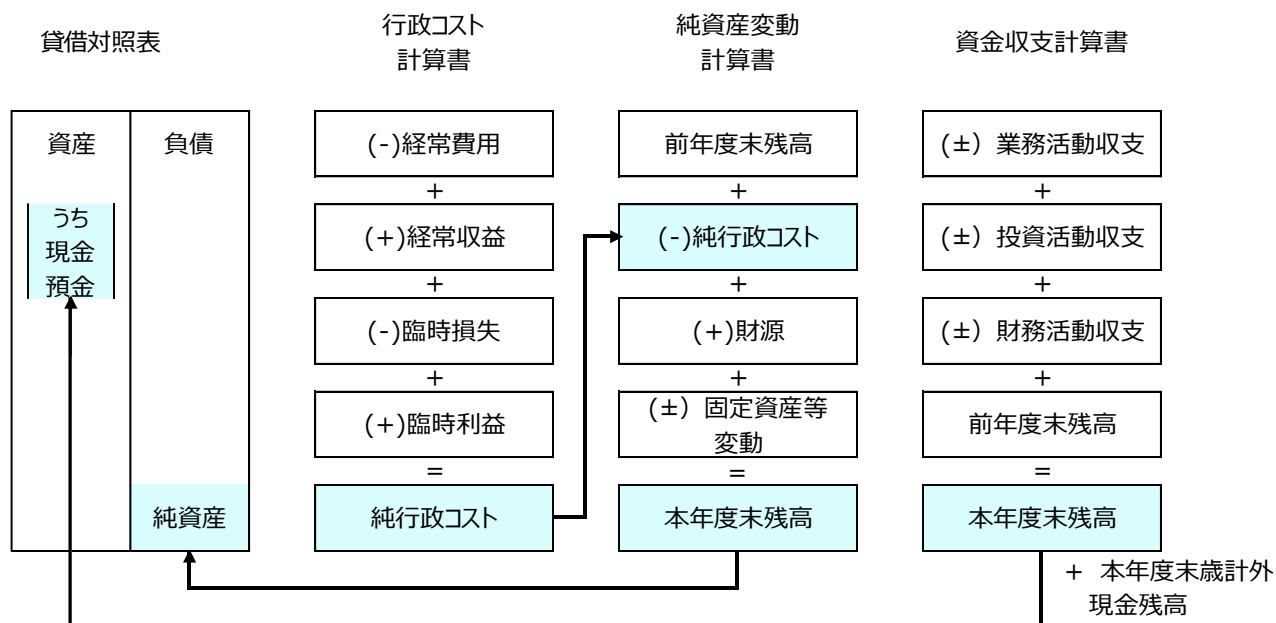
○純資産変動計算書（NW：Net Worth）：「純資産の変動情報」

貸借対照表内の「純資産の部」に計上されている数値が1年間でどのように変動（増減）したかを表したものです。

○資金収支計算書（CF：Cash Flow statement）：「現金収支情報」

民間のキャッシュフロー計算書にあたるもので、資金の出入りの情報を、「業務活動収支」、「投資活動収支」、「財務活動収支」の性質の異なる3つの区分に分けて表示したものです。

○財務書類4表構成の相互関係



○作成基準日

作成基準日は、会計年度末（3月31日）とします。なお、地方公共団体に設けられている出納整理期間（翌年度の4月1日～5月31日までの間）の収支については、基準日までに終了したものとみなして取り扱っています。

○財務書類の数値について

財務書類の数値は、各項目で四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。単位未満の数値がある場合は「0」を、金額がない場合は「-」を表示しています。

#### 4 一般会計等、全体、連結財務書類について

##### ①貸借対照表（概要版）

（単位：百万円）

科目	一般会計等	全体	連結	科目	一般会計等	全体	連結
<b>固定資産</b>	140,147	243,951	245,198	<b>固定負債</b>	56,594	136,215	136,854
有形固定資産	131,980	234,790	235,336	地方債等	49,567	87,530	88,130
事業用資産	77,875	78,126	78,559	引当金	6,473	6,885	6,915
インフラ資産	51,784	153,622	153,627	その他	554	41,800	41,809
物品	2,321	3,042	3,150	<b>流動負債</b>	5,328	9,567	9,722
その他	8,167	9,161	9,862	1年内償還予定 地方債等	4,321	6,957	6,981
<b>流動資産</b>	4,010	9,126	11,264	引当金	525	609	616
現金預金	1,383	5,808	7,353	その他	482	2,001	2,125
基金	2,362	2,362	2,362	<b>負債合計</b>	61,922	145,782	146,576
その他	265	956	1,549	<b>純資産</b>	82,235	107,295	109,886
<b>資産合計</b>	144,157	253,077	256,462	<b>負債・純資産合計</b>	144,157	253,077	256,462

現在の地方公共団体の会計制度は、1年間で、どのような種類の収入がいくらあり、その収入をどのような行政目的に支出したか、という単年度の状況は把握できますが、現在、どれだけ資産や負債があるのかという情報が不足していました。

この貸借対照表では、基準日現在で、どれだけ資産や負債があるのかを把握することができ、令和2年度末時点において、一般会計等で1,442億円、全体ベースで2,531億円、連結ベースで2,565億円の資産を形成し、資産調達財源として、将来返済する地方債などの負債は一般会計等で619億円、全体ベースで1,458億円、連結ベースで1,466億円あり、これまでの世代が負担した純資産が一般会計等で822億円、全体ベースで1,073億円、連結ベースで1,099億円となっています。

この金額において、負債が資産を上回り、「資産」－「負債」である純資産がマイナスになると、いわゆる債務超過となり、不健全な財政状況であることを意味しますが、本市は、一般会計等、全体会計、連結会計において、資産が負債を大きく上回っていることから、貸借対照表上では、健全な財政状況であると言えます。

②行政コスト及び純資産変動計算書（概要版）

（単位：百万円）

科目		一般会計等	全体	連結
行政 コスト 計算書	経常費用	55,553	84,135	103,448
	業務費用	21,047	28,571	29,895
	人件費	7,448	8,527	8,913
	物件費等	13,091	18,753	19,255
	その他	508	1,291	1,727
	移転費用	34,506	55,565	73,553
	補助金等	21,773	48,205	66,245
	社会保障給付	8,846	8,846	8,846
	その他	3,887	△ 1,486	△ 1,538
	経常収益	1,503	7,706	8,631
純経常行政コスト	54,050	76,429	94,817	
純 資産 変動 計算書	臨時損益	133	171	182
	純行政コスト	54,183	76,600	94,999
	財源	54,677	77,983	96,918
	税収等	29,035	37,749	48,237
	国県等補助金	25,642	40,234	48,681
	本年度差額	494	1,383	1,919
	資産評価差額等	△ 354	△ 751	△ 751
本年度純資産変動額	140	631	1,168	

令和2年度の行政サービスに係る経常経費は一般会計等で556億円、全体ベースで841億円、連結ベースで1,034億円であり、行政サービスの利用に対する対価である使用料・手数料などの経常収益は一般会計等で15億円、全体ベースで77億円、連結ベースで86億円であり、経常収益から経常費用を差し引いた純経常行政コストは一般会計等で541億円、全体ベースで764億円、連結ベースで948億円となっています。

この純経常行政コストを市税・地方交付税などの一般財源並びに国県等補助金などの収入によって補てんしています。

③資金収支計算書（概要版）

（単位：百万円）

科目	一般会計等	全体	連結
<b>業務活動収支</b>	2,241	4,904	5,902
業務支出	52,655	77,894	97,330
業務収入	54,948	82,857	103,290
臨時支出	130	137	137
臨時収入	78	78	79
<b>投資活動収支</b>	△ 2,776	△ 5,223	△ 5,223
投資活動支出	6,633	10,663	10,931
投資活動収入	3,857	5,440	5,708
<b>財務活動収支</b>	528	169	△ 197
財務活動支出	4,117	7,069	7,492
財務活動収入	4,645	7,238	7,295
<b>本年度資金収支額</b>	△ 7	△ 150	482
前年度末資金残高	1,173	5,637	6,549
本年度末資金残高	1,166	5,487	7,031
本年度末歳計外現金残高	217	321	322
<b>本年度末現金預金残高</b>	1,383	5,808	7,353

令和2年度決算においては、経常的な行政サービスにかかる業務活動収支は一般会等で22億円、全体ベースで49億円、連結ベースで59億円の余剰が生じ、投資活動収支で一般会計等が28億円、全体ベースで52億円、連結ベースで52億円の不足が生じ、財務活動収支で一般会計等が53億円、全体ベースで17億円の余剰、連結ベースで20億円の不足が生じた結果、本年度の資金収支額は一般会計等が0.1億円のマイナス、全体ベースが1.5億円のマイナス、連結ベースが5億円のプラスとなっています。前年度末資金残高と歳計外現金を加えた本年度末現金預金残高は一般会計等で14億円、全体ベースで58億円、連結ベースで74億円となっています。

この本年度末現金預金残高は、貸借対照表の流動資産における現金預金の金額と一致します。